

## 平成 25 年度第 2 回協働クロストーク！開催報告

- 1 日 時** 平成 25 年 7 月 9 日（火） 18：30～21：00
- 2 場 所** 長崎市社会福祉会館 4 階研修室
- 3 テーマ** 子どもを取り巻くいじめ・虐待などを防止するには？  
～地域社会・家庭・学校などの役割について～
- 4 参加者** 33 名（市民側 18 人、行政側 15 人。男性 17 人、女性 16 人。）  
NPO 法人子どもの人権アクション長崎（あじじの会）  
近藤みどり、原口光美、和泉由理香  
トムテのおもちや箱 高野幸恵  
NPO 法人輝 松尾伸也  
NPO 法人ワーニープロダクション 山下國廣、林田耕一  
NPO 法人心澄 宮本鷹明  
NPO 法人フリースクールクレインハーバー 中村尊  
NPO 法人 DV 防止ながさき 小松由美子、悦晴美  
TOSS 長崎 末光秀昭  
もってこ～い長崎レクリエーショングループお手玉の会  
角野悠、松尾京子  
子どもの権利を守る長崎の会 安達和美、古豊史子、井形和子  
ドリーム カム ホーム 川井健蔵  
子育て支援課  
林田博、富野裕子、甲斐修司、角田明子、増本利恵、大野剛  
学校教育課 久松千樹  
人権男女共同参画室 岩崎雄次  
しごと改革室 山本勉  
市民協働推進室  
松本憲明、原田宏子、本庄祐子、生駒太一、稲岡涼子、吉岡利章
- 5 狙い・目標** (1) 市民活動団体から現場の話を引出し、条例や今後の施策・事業  
へつなげる  
(2) 市民同士、市民と行政の新たなつながりづくり

## 6 当日の流れ

18:30~18:50	オープニング
18:50~19:00	各グループ自己紹介（所属、名前、暑さを乗り切るには）
19:00~19:15	担当課からの説明
19:15~20:15	各グループでワーク ① 『いじめ、虐待、体罰について実際に見た、聞いたことがある事例を教えて』 ② 『そのために自分の団体ができること。したいこと。』 ③ 『その時に、こんなものがあればよかった。これを知っていればよかったというものは？』
20:15~20:45	ポスターセッション 各グループで出た意見を見て回る
20:45~20:50	コーディネーター解説
20:50~21:00	各グループでのふりかえり『参加してどうだったか』
21:00~21:02	クロージング

## 7 各グループのワークで出た事例と意見交換の内容

### ◎ 事例

→、⇒ その事例に関する意見

### ◆ 1班

◎ **体罰について相談。**中学校での部活で指導者（教師）による体罰を受け、学校への登校がたつらくなる。好きで入った運動部の活動で、一人だけ特別にしごかれる、暴力を受ける。医者に診てもらい、診断書を学校に持参しても、認められなくて、親子共々悩み苦しんでいる。暴言などで、子どもの心は傷ついている。

- 体罰をオープンにしないと
- ⇒ 部活動指導者研修
- 校長先生の姿勢で変わる
- ⇒ 勝負は二の次、楽しい部活回復を！
- ⇒ 部活動も子どもの居場所になるように！
- 学校を楽しく卒業できるようにしたい
- 学校と敵対すると子どもの居場所がなくなる
- 親の支援者が必要

◎ **小学生女兒への同級生男児からの性暴力。**学童クラブの指導員への相談から、暴力防止教育プログラムを学校で実施。その後の経過を聞くと、学校での加害児保護者もまじえた話し合いを実行しようにも、参加しない等があり、フォローがうまく行えず。被害児へのカウンセリングは実施した。

- 有害図書が氾濫
- 専門家が必要

- 相談できる相手が必要
  - ⇒ 話を聴く場所を増やす
- 予防が大事
  - ⇒ 身近な人がSOSをキャッチ
  - ⇒ 安心できる（安心する）場所づくり

◎ **携帯電話によるトラブル。別の人になりすまして「〇〇があなたの悪口を言っている」とメール。**

- 自分で気づかないと分からない
- 親が愛しむことが大事
- 親から受け入れられなかった、満たされないもの
- 携帯のトラブルは広がりが早い
- いじめられた友人を助けられなかった自戒の念
  - ⇒ 子供同士の日頃のコミュニケーション

◎ **〈保護の怠慢〉風呂に入れない。身の回りの物の整理ができない。病院に行かない。**

- 子育て情報をインターネットで調べている
- 親としての経験
  - ⇒ 生活の見直し
- 親としての自覚がない。当たり前がない。
- 生の子育てを学んでほしい
- 貧困の連鎖

◎ **子は親の鏡と言いますが、大人社会のいじめをそのまま子どもがやって見せていると思う。問題は大人の方にあるのでは。大人のいじめが無くなれば、子どものいじめは無くなると思う。**

- 大人条例が先では。30~40代の親が孤立。
- 親が気軽に話せる仲間。
- 親を支える
- 地域のマナーの徹底
- 人間関係、仕事の重みでストレス、あるいはいじめ
- 本音と建前を子どもは見抜く
- 大人も子どもも自分らしく生きる
- 親の方に問題がある。自分都合
  - ⇒ 社会全体のストレス解消
  - ⇒ 大人にゆとりある生活を！
- 大人社会のいじめにどう気づくか？
- 自分を表に出す。自分らしく表現。
- 笑顔が一番
  - ⇒ 親、大人も人生を楽しむことを支える。

- ⇒ 子ども安全
- ⇒ 110番の家の活用
- ⇒ 子ども声をきく
- ⇒ 子どもの自尊
- ⇒ 子どもの権利条約をわかりやすく学習
- ⇒ 地域のか

◆ 2班

◎ 子ども達を家に残し、夜、家をあける親が急増している

- 〈急増の理由〉貧困家庭が多い

◎ 『子どもが声をあげられる環境づくり』

子どもの自殺事案の体験から、独立した第三者機関の設置を、市長部局で条例として作ってもらえないか要望を続けている（川西のオンブズパーソンのような子どもの権利条約に沿ったもの）。今、暴力事案の相談があるが、処分後も子どもの傷ついた心は癒えないまま、学校に行くことも苦しい PTSD の状態で、やはり調査の在り方が問題と感じている。

- どうして？を知ることができないので、知りたい
- 第三者機関の必要性（正しい機関）
- 兵庫県川西市（良い例）
- 子どもの権利条約をしっかり踏まえる
- 体罰は暴力だ!!
- 支援 or 寄り添い
- 自分で自分を追い詰める
- 条例に期待する
- 声をあげられる場所
- 調査の方法にも問題がある（加害者のみ）

◎ 夏休みの行事（プール）にて、児童の体にアザを発見。学校に報告、相談し、行政が介入、養護施設へ。

- 行政との連携も大切
  - ⇒ 条例
  - ⇒ 子どもの権利条約
  - ⇒ 普及が大事
- 学校だけでは見つけにくい
- 家庭環境の問題
- 行政からの力エリがない（報告）
- 学校サポーターの役割の重要性（第三者）
  - ⇒ 第三者委員会が味方であってほしい

◎ **学童へ、虐待の疑いにて相談**

→ 1年に16,000件の対応（行政の相談）

◎ **〈虐待のヒント〉相談室に来て愚痴を言う。季節に合わない服装。**

→ 親を守る子どもの心理

◎ **〈いじめ〉予防を大切にしている**

- ・無視された
- ・けられたり、たたかれたり
- ・子供同士で性的嫌がらせ

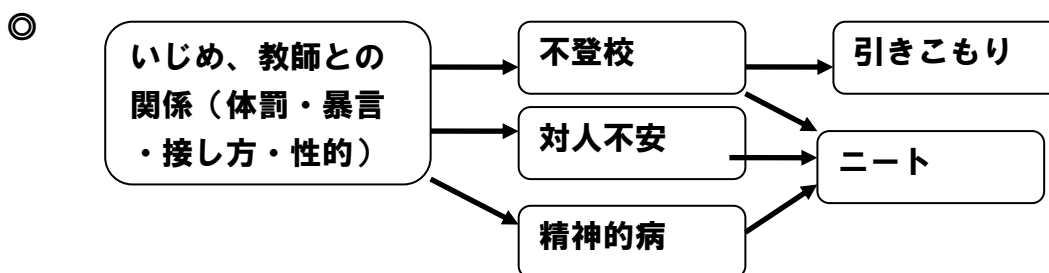
**〈虐待〉教師と親を対象としたセミナーも**

- ・先生の体験談

→ 性的虐待について、子どものロールプレイ  
→ 教師・親セミナー（気づく）  
→ 学校等に行って、WSを行う  
→ 予防・防止プログラム

◎ **いじめは子どもだけではない、大人社会でもある。体罰は愛情、しつけとの境目。虐待は加害者に認識がない。**

→ 虐待については、周囲で判断するしかない  
→ いじめは社会の問題だと認識すること  
→ 逃げ場を作ること  
⇒ 開放的にしていく  
⇒ 閉ざされた空間で起こりやすい  
⇒ 加害意識が起こりやすい



→ 受け手の感受性が違う  
→ 予防・防止  
→ 対処策が必要  
⇒ 罰として漢字を書け!!  
⇒ 漢字を覚えることは楽しいことなのに  
→ 子どもの解決能力を生かす  
→ 自分で自分を守る力  
→ 子どものエンパワーメントを出せるように

- 子供は知らないだけ
- ⇒ 小学校・幼稚園でいじめ防止プログラム

◎ **虐待（ネグレクト・性的）、把握が難しい。子どもからのSOS。（ぼかしながら発信・自分が生きづらくなる）**

- 信頼関係が必要
- 子を守る親の心理
- 統計に出ない事実がある

◆ 3班

◎ **養育を適切に受けておらず、しつけを学ぶ機会も少なく、精神的に負担があると、ネグレクト・身体的虐待が発生しやすい。親が、自分が虐待傾向にあることを理解できていない。**

- 負の指導の連鎖
- 自分のしつけと虐待
- 昭和30年代まで子育てのやり方のっていた

◎ **学校的、社会的に良い子ではなく、表現が苦手な子は孤立しがち。仲間はずれといういじめへ。中・高くらいが始まる傾向。**

◎ **娘のクラス（中学3年生）のクラスで、容姿の悪口の落書きがあり、書かれた子どもと親も入って、クラスで犯人を探しているが、名乗りでない。もう2～3週間、この問題ばかり。**

- 親が入るとかえってこじれる
- 母は我が子を思う気持ちが一番強い
- 学校は警察ではない
- 親との関係
- 被害妄想を持つ親が多い
- 犯人を捜すことがいい
- 発達障害児への関わり方をもっと広めてほしい
- アスペルガー・ADHDの子どもの親社会的・・・

◎ **ルールを守る意識が強く、融通が難しい子は仲間はずれにされがち。中・高くらいが始まる傾向。**

- ルールを守る意識が強すぎる
- 枠にはまらない子のトラブルが増えている

◎ **〈「いじめ」について〉転校生（5年男児）に数名の子が身体的誹謗。指導時、一旦おさまるが、一人の子が2回目のいじめ。父親の出番により、解決。**

- “転校生”にトラブルが多い

- 家族の出番が大事
- ⇒ 子と父のコミュニケーション

◎ クラスの中で、服や持ち物が汚いと差別されていた女の子（中学1年）

- 臭い・外見に反応
- 経済的背景も

◎ 小学校5～6年。仲間はずれ。暴力的な子どもが多く、1年間でガラスが何枚も割れるなど問題が多かった。弱い立場になる子が決まっていく雰囲気があった。

- 人ではなく、物にあたる
- 30～40人中5、6人が暴力的
- 泣いて主張する先生が、子どもにストレス
- 周りの子どもが心配
- みんなの意識があれば

◎ 虐待？小6。自尊心低下。ものすごい荒れ。大人でも抑えられない。学校中が落ち着かない。

- 大人を信じられない
- 集団生活にとけこめない
- 生まれつき暴力的な子はいない

◆ 4班

◎ 近くの家から子供の大きな泣き声が聞こえ、泣き声がなかなか止まない。

- 難しい問題
- 自分が見ていないとなかなか通報できない。

◎ 通学中の小学生が何人かで1人の子の帽子を取って返さない。

- 自己否定をすることはきつい。でも、理解させないと
- 学校にも状況を話してみても？
- どんな環境に育ってもいじられる理由はない
- 自分がされたことを弱い者にすることがありがち。

◎ 市立中学野球部で顧問教師からの体罰（バットで叩かれる、蹴られる、殴られる、言葉での人権否定、暴言など）で当該生徒は心身にダメージを受け、一時不登校に。保護者が問題を学校、市教委に訴えて調査もあったが、過小でずさんな調査結果。教師は一応処分を受け、問題が終わったように思われているが、当該生徒は未だ心身のダメージから回復していない。

- 教師への処分（戒告）で完結
- 情報公開で調査の甘さが判明
- 子ども自身が大切な存在と理解させたい

- つらい、イヤだと言っていいんだと教える
- 体罰を受けた子どもの心の傷は消えていない
- 間違っただけをして怒られるのは仕方がないが、体罰を受ける理由はない
- 自分も大事。自分の隣の人も大事。
- 権利は大切。権利と権利がぶつかったときにルールが必要

◎ **食事はカップ麺、菓子パン**

- 食べさせればそれでいいと思っている

◎ **無関心（学校、薬、安全）**

- ネグレクト。自分に力がない。
  - ⇒ もっと周りの人が気をつければいい
- 手をかける（成長に応じて減らす）
- 目をかける（きちんと見続ける）

◎ **子どもが通う保育園で、父親から暴力を振るわれている母親が、自分の子どもに対しても暴力的な言葉を使う現場に遭遇した。**

- 自分の経験が子どもにそのまま影響
- 通報をためらう気持ち
- まずは目配り

◎ **息子が小6の頃、クラスの男子グループの中で「1人の子に命令をしてふざける」というものがあつた。**

- いじめられた子の親からの訴えで、親同士の関係もギクシャク
- いじめられた子は別のグループに。卒業式で一応仲直り。
- 子ども自身はいじめられたと訴えていない。親がいじめだと思った。
- メールで色々な情報が回った。
- 事を大きくしたくないので、先生が火を消してまわる
  - ⇒ 学年の親、教師で話し合う場
  - ⇒ 学校以外の第3の機関
  - ⇒ 子ども自身が相談できる。親も相談できる。

◎ 『ひとり親家庭の子どもに対するいじめ』

母子、父子に問わず、何らかの形で起きる。小学校3年生くらいまでが多い。

自分の体験より、いじめる方も悪い。また、いじめられる子の親の想いや対応も大切。

**親の気持ちの持ち方、考え方、接し方も大切。**

- ネットでひとり親支援をさがした
- SNS（ミクシィ）で同じような人で集まった
- 行政支援。父子家庭はないと言われた。
- 父子家庭に対する支援が少ない
- 預ける施設を紹介された。怒りを覚えた。



- ⇒ 笑っている父親、母親を増やす
- ⇒ 親子での会話の時間を増やす
- ⇒ 人に話をしやすい環境
- ⇒ 行政が市民の声に耳を傾ける機会を増やす
- ⇒ 権利を侵害されたときの駆け込み寺のような組織、権利救済のための第三者機関
- ⇒ 相談の場所、機関
- ⇒ 「子どもの権利条約」の普及
- ⇒ いじめの通報、調査の仕組み
- ⇒ 修復的対話の普及
- ⇒ 子どもに力を付けていく
- ⇒ 大人に認めてもらう場所
- ⇒ イヤなことはイヤと言える場所づくり
- ⇒ 子どもの意見でも尊重される
- ⇒ 今ある相談窓口を分かりやすく
- ⇒ スクールソーシャルワーカーの活用

#### ◆ 5班

#### ◎ 『自分の体験』 子育て中（0、2、4歳の時）ゆとりがなく、虐待する気持ちがあった。

- 少し手を出しちゃった
- 今だけという思い
  - ⇒ 初めてママ親子絆づくり講座
- サポートできる人がいればいい
  - ⇒ 地域での子ども支援、おばちゃんのカ

#### ◎ おもちゃひろば（親子で触れ合うあそびの広場）で子どもを受け入れない、一緒に遊ばない、子どもからのかわりを無視する。

- 専業主婦の方が虐待率高い。〈背景〉夫から無視されるかも。母の養育歴。
- 子育て支援＝子育て代行業
- 預けるだけじゃなく、つないだままの支援
- 子どもがいないときに楽しむのではなく、一緒に楽しむサポート
  - ⇒ 一緒に遊ぶあそび方を学ぶ
- ゆとりある勤務時間にできればいい or 夫も休めるように。
- お母さんの心の開放。ミニスカも OK？
- ライフスタイルの変化の受け入れ
- 周りのサポート（おばちゃん）は批判から入るので引く
  - ⇒ 地域につながりをつくる
  - ⇒ 子育てのヒントを学ぶ機会をつくる

◎ DV 家庭で、DV の目撃体験による心理的な虐待を受けていた子ども達と接している。

- 夫婦ゲンカ⇨心理的な虐待
  - ⇒ これ知らない。もっと PR を。プレママで教えて。
- 1歳7ヶ月で父親と別れる。お腹の中にいるときから夫婦ゲンカ。
- 日頃から不安定。母親がいなくなるのでは。
  - ⇒ 子どものケアができる専門機関を増やす
- 小学生の男の子が父親のように手を出す。母の批判もする。
  - ⇒ DV シェルター
  - ⇒ 県の女性センターは人数が減
  - ⇒ 断酒会
  - ⇒ DV はまず逃げること！

◎ 知的障害（軽度）のある母親によるネグレクト

- フォローするが、理解できない。怒られるからしないといけない。
- 離れたほうがいい？知的レベルを母親が超えたとき。
  - ⇒ 地域？近所？のフォローがいるのでは

◎ LINE のトラブル。LINE 中毒や犯罪に巻き込まれたり。

- 携帯のフィルタリングを親がはずしにくる
- 与える（買う）にも学びが必要
  - ⇒ 販売する方の教育をもっと厳格にする。
  - ⇒ 与える前に安全性などについて学ぶ
- メールは3分以内に返さないと…実はしんどい？

◎ 子どものいじめについて相談に行った。要望を行い、一定の改善はなされた。

- 父親の立場から見ると不満は残る。
  - ⇒ 第三者機関
  - ⇒ いじめに特化した職員配置。中立の立場で相談を受ける。
- 母が要望に行くと軽く、父が行くと校長室へ。教委に行くと話が早かった。
- 学校=いじめられる側に問題あり！という見解。
- いじめは何が理解でもダメ。学校現場で統一感なし。
  - ⇒ いじめる側の子どもにカウンセリング義務付け
- いじめではなく、いたずら
  - ⇒ いじめを許さない環境づくり
  - ⇒ 利益が出ない部分に行政の手を
  - ⇒ 子育ては長い視点で。

## 8 参加者の感想・気づき

### ◆市民側

- 今まで参加したものは色々あったが、全体の発表がなかったのは初めて。少人数で共有する話ができたとことで、緊張感なくできた。
- はじめて会った方々の中で、子どもを取り巻くいじめなどなどについて話を聞き、意見交換できて有意義だった。
- それなりに良かったが、何か足りない様な！
- 自分が何のためにこの活動を始めたのか、続けているのかを、改めて考え直すよい機会となった。がんばります！
- 条例が制定されますように！！今日の実体験談の集大成が条例の「下じき」になると思う。突然参加させてもらって、ありがとうございました。
- 色々な話を聞く中で、自分自身の知識の少なさを感じた。守る人のためには、まずはしっかり知ること、つながりを増やすこと。
- いろんな意見・話が聴けて面白かった。長崎には、様々な視点から多様な行動・活動をしている人がいるので、開放的に取り組みれば良いものができると思う。
- 色々な現場の方の話を聞いて参考になると共に、やはり相談がいつでもできる機関があればと感じた。何より、行政の方が条例作りに真剣に向きあい、考えていることを知り、長崎の将来も明るい！かな。
- 様々な問題が様々なところで起こっている。起こったことに対して、不平不満を言うのは簡単。でも、それで終わっても、何の解決にもならない。自分が色々と言われようとも、何か行動していくことが大事と思っている。そして問題は、自分を強くしていく元でもある。ありがとうございました。
- 多職種の方、保護者の方々の話を聞いて感謝。自分が持っている視点や専門性について知る機会にもなった。このような機会が増えることが、生きやすい社会の土台になっていくのではと感じた。
- たくさんの事例を聞いてよかった。色々聞いて、やはり小さい頃からの対策と全体で取りくむような施策が必要だと思った。
- こどもの権利を大切にするためには、こどもに「自分は大切にされるべき存在」とわかってもらい、自由に意見を言える環境を整え、それを育てる教育と支えるシステムをきちんと作る必要がある。
- 「子どもの権利条約」のことを考えている人がいてうれしかった。子どもたちが自分を大切な存在だと自覚し、それと同じように、人も大切な存在だと思えるような(理想ですが)そんな社会になるための、長崎市の子どもに関する条例をとて、とても期待している。
- 初めて参加して、すごく良い意味で勉強になった。色々な意見が聞けて楽しかった。また次回も参加したいと思う。
- 色々な問題があることを知り、考える機会を持ててよかった。いのちを大切にということ、子供の小さい時から教えてほしい。人にやさしくできる人間になれるように。
- 色々な方の考えを聴くことができ、とても勉強になり、楽しい時間をすごすことができた。エネルギーをもらった。

- 様々な視点から沢山の話がきけて良かった。子育て支援は長〜い目で焦らず、ゆっくり腰をすえてやりたいと気持ちを新たにした。

## ◆行政側

- 重い問題だけど、向き合わなければいけないと改めて思った。
- 立場の違う方々と共に、というのがよかった。まさに協働であった。意見は違えど、みんなで一緒にという意識があったから。
- 子どもをとりまく問題について、さまざまな意見を伺えて有益だった。また、一生懸命考えていることを共有できてよかった。さまざまな立場から協働して推進することで、目的を達成できると思った。
- 実際に活動されている方々の意見は、とても大切だとまたまた実感。役に立つ行政であるために頑張ります。
- いじめ等を防止するには、また解決するには、の糸口がつかめた。
- 体罰が重特化している事例が数件あった。子どものためになる第三者機関の設置が必要だと感じた。そのために、広く市民に設置意義を知ってもらうことが大切。
- 参加者の皆さんにたくさんの事例を紹介してもらった。もっと多くの時間があれば良かった。色んな話、参考になった。
- 色々な活動をしている人の考え方や声が聞けて、これからは自分の子育てだけじゃなく、他の親や子どもにも目を向けたい。子どもたちの明るい笑顔があふれる長崎にしていきたい。
- 仕事に関わる人達と変わらない様に、参加者の方々が周辺の子ども達の問題に関心が深い様子を感じた。身近な住民の方々の見守りで子ども達の環境をよくしたい。
- いじめ等は、色んな立場から見て、色んな人の意見を聞き、議論して、少しでも前向きに対処していくことが大事。
- 親・先生以外の方も、真剣に子どもたちの幸せを考えていることが嬉しかった。
- 個人的には、様々な分野の方の意見が聴けてよい経験になった。行政の立場からは、もっと視野を広く、アンテナをはっていく必要を感じた。
- 子育ての経験のない立場で、色々な話を伺い、勉強になった。
- いじめ、DV について、自分の知らなかった事（親の行動・DV の現状）について知ることができてよかった。
- 子育てについての多くの金言をもらい、非常に勉強になった。
- 子どもをとりまく環境はめまぐるしく変化しており、目がまわりそう。BP 成功させるぞ！

## 9 当日の様子

### オープニング



### 担当課からの説明



### グループワーク



